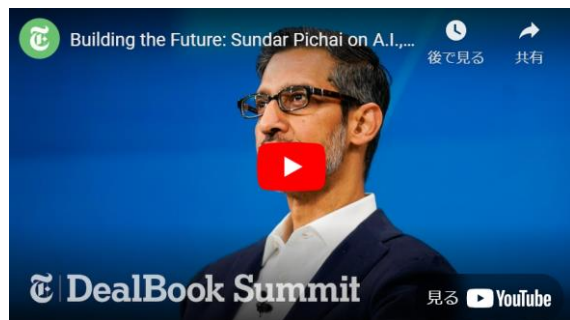


Google検索とAIは2025年にどのように進化するのか？

Google 検索と AI は 2025 年にどのように進化していくのだろうか？ Google の CEO であるスンダー・ピチャイ氏や検索部門副社長のリズ・リード氏らの発言をもとに探ってみる。

Google 検索と AI は 2025 年にどのように進化していくのでしょうか？

Google およびその親会社 Alphabet の CEO である Sundar Pichai(スンダー・ピチャイ)氏と、検索部門の副社長であり AI 事業も牽引する Liz Reid(リズ・リード)氏のインタビュー、そしてピチャイ氏ら幹部の会議でのディスカッションをもとに探してみます。



- [Google CEO Pichai tells employees to gear up for big 2025: 'The stakes are high'](#)
- [Meet the woman in charge of keeping Google Search relevant in the AI era](#)

AIによる変革:Googleの2025年の重点課題

Google は、2025 年に検索と AI の両方で大きな進化を予想しており、いくつかの重要な進展と焦点の変化が見込まれます。

AI主導の検索機能強化

2025 年前半に Google は、多数の AI 機能を検索エンジンに導入する計画です。

これらの改良により、検索はより複雑な質問に対応できるようになると期待されています。

検索は 2025 年に大きく変化し、現在の状態と比較して驚くべき新機能が追加されるだろうとピチャイ氏は述べています。

また、Google は検索に Gemini を使用しており、すでに 10 億人以上のユーザーが利用していることにもピチャイ氏は言及しています。

Google検索とAIは2025年にどのように進化するのか？

Google 検索と AI は 2025 年にどのように進化していくのだろうか？ Google の CEO であるスティーブ・ピチャイ氏や検索部門副社長のリズ・リード氏らの発言をもとに探してみる。

Gemini アプリの成長

2025 年における Google の主要な焦点は、Gemini アプリの規模拡大です。

これを、AI 分野で主導的な地位を確立するための重要なステップと Google は捉えています。

Gemini アプリには強い勢いがあるものの、現状では、競合他社との差を縮めるためにはまだ課題があることもピチャイ氏は認識しています。

AI における技術的ブレークスルー

AI 開発の規模拡大が急速に進んでいることは事実だとしても、2025 年の進歩には、単なる処理能力の向上に頼るのではなく、より深い技術的およびアルゴリズム的なブレークスルーが必要になるとピチャイ氏は考えています。

AI モデルが推論や一連の行動をより確実に完了させるなどの分野で大幅に改善されることを期待しています。

生成 AI と検索の統合

現在、Google 検索と Gemini は別プロダクトですが、将来的に両者が統合される可能性をリード氏は示唆しています。

AI が検索を生成 AI プロダクトに根本的に変えることはないものの、検索体験を向上させることができると想定しています。

また、AI によって生成されたコンテンツは本質的に悪いものではなく、検索の進化の一部となり得るとも考えています。

ユニバーサル AI アシスタント

DeepMind の共同創設者である Demis Hassabis(デミス・ハサビス)氏は、さまざまなドメイン、モダリティ、デバイスでシームレスに動作するユニバーサル AI アシスタントを構想しています。

Google の実験プロジェクトである [Project Astra](#) は、2025 年前半にアップデートされる予定です。

ハサビス氏はまた、Gemini プロダクトは今後 1 ~ 2 年で大幅に進化すると述べています。

Google検索とAIは2025年にどのように進化するのか？

Google 検索と AI は 2025 年にどのように進化していくのだろうか？ Google の CEO であるスティーブ・ピチャイ氏や検索部門副社長のリズ・リード氏らの発言をもとに探してみる。

コンテンツと信頼

特に若いユーザーは、信頼できる人々からの本物の声と情報を求めていることを Google は認識しています。

AI によって生成されたコンテンツが大量に存在する世界では、信頼できるコンテンツを提供する必要性がさらに重要になります。

AI 生成コンテンツが氾濫する世界の問題に対処するため、透かしなどの AI 生成コンテンツを識別するソリューションに取り組んでいることにもピチャイ氏は触れました。

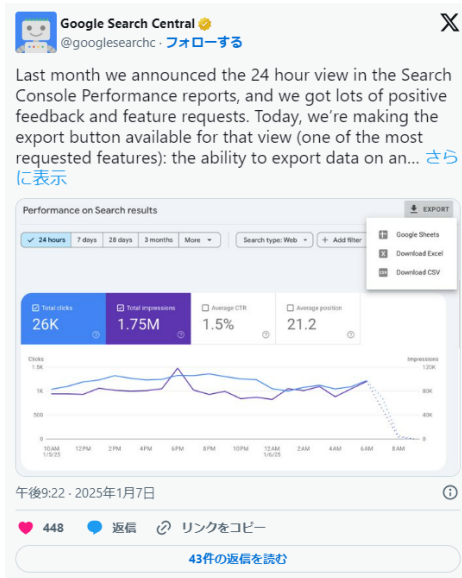
このように、2025 年を AI と検索の大幅な進歩の年と Google は予想しています。

AI を統合して検索を改善し、Gemini アプリを拡大することに重点を置きながら、画期的な技術の開発と AI 分野での競争力維持にも注力しています。

僕たちが予想もしない新しい機能やプロダクトが登場することが予想されます。

GSCで過去24時間別データエクスポートが可能に

Googleでは、米国現地時間の2024年12月12日にGoogle Search Console(以下:GSC)で直近24時間における時間別の検索パフォーマンスが分かるようになったと発表しました。実際、既にほぼ全てのGSCアカウントで確認できるかと思います。そしてこの度、その24時間別のデータをエクスポートできるようになったとGoogleはXでポストしていましたのでご紹介します。



先月、Search Consoleパフォーマンスレポートの24時間表示を発表しましたが、多くの肯定的なフィードバックと実施してほしい機能リクエストをいただきました。それらを受けて本日、表示のエクスポートボタンをご利用いただけるようにしました(最もリクエストが多かった機能の一つです)。これは、過去24時間のデータを時間単位でエクスポートする機能です。新しいデータをどうぞご活用ください！

引用)@googlesearchcより和訳

ということ？

そもそも昨年に実装された直近24時間のレポート確認につきまして、詳しくは本ブログでもご紹介しております「[GSCで過去24時間別データ閲覧](#)」をご覧ください。

今回、そこに新しく[エクスポート]ボタンができました。GSCの[検索パフォーマンス]で24時間を選択している状態で右上の[エクスポート]をクリックするとCSVで閲覧できるようになりました。



GSCで過去24時間別データエクスポートが可能に

Googleでは、米国現地時間の2024年12月12日にGoogle Search Console(以下:GSC)で直近24時間における時間別の検索パフォーマンスが分かるようになったと発表しました。実際、既にほぼ全てのGSCアカウントで確認できるかと思います。そしてこの度、その24時間別のデータをエクスポートできるようになったとGoogleはXでポストしていましたのでご紹介します。

データをエクスポートすると下記のような感じでcsvを閲覧できます(Excelとしてダウンロードした場合)。

1	時間 (UTC+09:00)	クリック数	表示回数	CTR	掲載順位
2	2025-01-06T20:00:00	0	69	0.00%	25
3	2025-01-06T21:00:00	1	93	1.08%	33
4	2025-01-06T22:00:00	1	110	0.91%	33
5	2025-01-06T23:00:00	0	57	0.00%	27
6	2025-01-07T00:00:00	3	249	1.20%	49
7	2025-01-07T01:00:00	0	175	0.00%	55
8	2025-01-07T02:00:00	0	115	0.00%	64
9	2025-01-07T03:00:00	0	144	0.00%	59
10	2025-01-07T04:00:00	0	100	0.00%	79
11	2025-01-07T05:00:00	0	91	0.00%	76
12	2025-01-07T06:00:00	0	83	0.00%	65
13	2025-01-07T07:00:00	0	106	0.00%	61
14	2025-01-07T08:00:00	0	112	0.00%	64
15	2025-01-07T09:00:00	1	108	0.93%	47
16	2025-01-07T10:00:00	6	264	2.27%	47
17	2025-01-07T11:00:00	3	300	1.00%	46
18	2025-01-07T12:00:00	6	117	5.13%	33
19	2025-01-07T13:00:00	2	227	0.88%	73
20	2025-01-07T14:00:00	2	92	2.17%	18
21	2025-01-07T15:00:00	0	83	0.00%	20
22	2025-01-07T16:00:00	4	58	6.90%	34
23	2025-01-07T17:00:00	1	40	2.50%	26
24	2025-01-07T18:00:00	0	10	0.00%	36
25	2025-01-07T19:00:00	0	0	0.00%	0

これでデータを使った分析やレポートがしやすくなると思います。直近の24時間レポートは、刹那的でアーカイブ化できないんですよね。ですので常にリアルタイムで見て、それを重ねていくうちに、段々と時間帯別のクリックや検索状況が見えてくるものです。でも毎度毎度GSCに24時間以内にログインして確認して…も面倒です。

でも今回の機能により、一応毎度ログインしなければならないものの、常にエクスポートする癖をつけておけば、ダウンロードしたCSVが溜まって時間帯別のデータ検証ができるだけの量になるかもしれませんね。

というわけで、マニアックな検証マンの心をくすぐるちょっとだけ嬉しい機能かもしれません(笑)。

Google Search Consoleの24時間ビューレポートのデータをエクスポート可能に

Google Search Console のパフォーマンスレポートで提供されたばかりの 24 時間ビュー レポートのデータをエクスポートできるようになった。

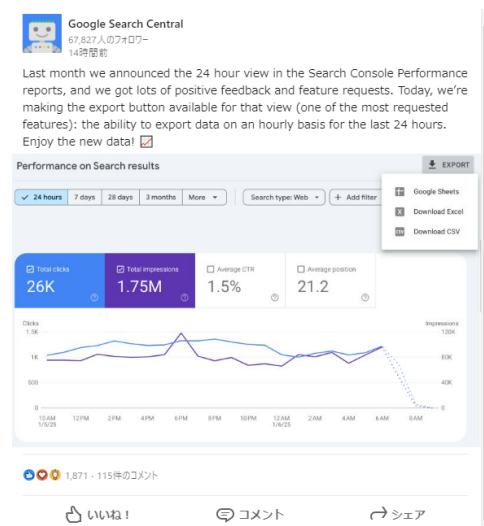
Google Search Console のパフォーマンスレポートで提供されたばかりの [24 時間ビュー](#) レポートのデータをエクスポートできるようになりました。

24 時間ビューは、検索結果と Discover、Google ニュースのパフォーマンスレポートで直近 24 時間のデータを最速で入手できる期間指定フィルタです。先月リリースされたばかりでした。

待望のエクスポート機能

エクスポート機能の追加を Google 検索セントラルは[次のようにアナウンス](#)しています。

先月、Search Console のパフォーマンスレポートに24時間ビューの導入を発表したところ、多くの肯定的なフィードバックと機能のリクエストをいただきました。本日、最も要望の多かった機能の 1 つである、そのビューのエクスポートボタンが利用可能になりました。過去24時間のデータを時間単位でエクスポートできる機能です。新しいデータをお楽しみください！ 📄



他のレポートのエクスポートと同じように、レポート右上の「エクスポート」ボタンから 24 時間のデータを次の 3 種類の形式でダウンロードできます。

- Google スプレッドシート
- Excel
- CSV

Google Search Consoleの24時間ビューレポートのデータをエクスポート可能に

Google Search Console のパフォーマンスレポートで提供されたばかりの 24 時間ビュー レポートのデータをエクスポートできるようになった。



加工しやすいように、24 時間ビューのデータも処理できる形で入手したいと望んでいた人は多かったはずですが。エクスポート機能の追加で実現しました。

URL検査ツールのスクリーンショットはGoogleが実際に見ている表示

Search Console の URL 検査ツールが生成するスクリーンショットは、Googlebot が実際に見ているページだ。ただし、正常に表示されていなかったとしても、HTML が想定どおりに取得されていれば基本的に問題はない。

Search Console の URL 検査ツールが生成するスクリーンショットは、Googlebot が実際に見ているページです。ただし、正常に表示されていなかったとしても、HTML が想定どおりに取得されていれば基本的に問題はありません。

スクリーンショットは Googlebot が見ているもの

Reddit に、[次のような質問](#)が投稿されました。

Is the Googlebot screenshot a complete picture of what Google can see?

Googlebot のスクリーンショットは、Googleが見ているものを完全に表していますか？

Google の John Mueller(ジョン・ミュラー)は[こうコメント](#)しました。

For the most part, yes. But there are some edge cases and temporal anomalies. Tell us more about what you're trying to check.

ほとんどの場合はそうだ。しかし、いくつかの例外や一時的な異常がある。何をチェックしようとしているのか、詳しく教えてほしい。



URL 検査ツールで「ライブテスト」を実行するとスクリーンショットを確認できます。これは、Googlebot が実際にレンダリングしたページを投影しているということです。

ブラウザで見たページ表示と若干異なることがありますが、Google にはそのように見えています。

URL検査ツールのスクリーンショットはGoogleが実際に見ている表示

Search Console の URL 検査ツールが生成するスクリーンショットは、Googlebot が実際に見ているページだ。ただし、正常に表示されていなかったとしても、HTML が想定どおりに取得されていれば基本的に問題はない。

空白でも HTML が正常なら問題なし

スクリーンショットが、ブラウザで見た表示と異なっていたとしても、極端に言えば空白だったとしても、HTML コードが想定どおりに取得されていれば通常は問題ありません。

スクリーンショットと HTML の取得について、[こんな質問](#)ができました。

Sometimes (not often) I see a blank screen but then all of the code will be in the HTML view. Googler's have said in the past that as long as it's in the HTML view then it's fine. Maybe it timed-out during the rendering process? I was told not to worry about it. Same goes for the incomplete pages that only capture a portion. I read that so long as the full code is in the HTML tab that it was all good. I think it was Gary Illyes who said that.

ときどき(頻繁ではありませんが)、画面が真っ白になるのに、HTML ビューにはすべてのコードが表示されることがあります。

HTML ビューに表示されていれば問題ないと Google の人から以前に言われました。レンダリング処理中にタイムアウトしたのかもしれないから、心配する必要はないと言われました。一部しかキャプチャされていない不完全なページについても同様です。完全なコードが HTML タブにあれば問題ないと解釈しました。

確か Gary Illyes が言っていたと思います。

名指された、Gary Illyes(ゲイリー・イリース)氏は[こう返答](#)します。

tis correct: if it's in the html you're all good (I.e. no need to have JavaScript bring in the content). rendering sometimes fails /shrug, but if you consistently see in SC that rendering failed you might have a problem. (I thought there's console output to see if it failed?) That's why it's good habit to have the content in the initial html: THAT can't fail.

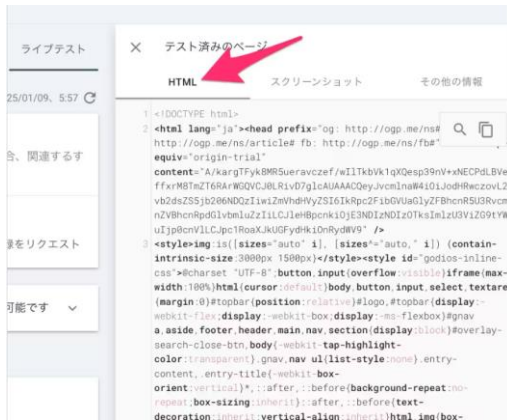
そのとおりだ。HTML に(コードが)あれば問題ない(つまり、JavaScriptで コンテンツを取得する必要はない)。

しかし、もしレンダリングの失敗が Search Console で頻繁に見られる場合は、問題があるかもしれない。(失敗した場合に確認できるコンソール出力があったと思う。)

だからこそ、最初のHTMLにコンテンツを含めておくのが良い習慣なのだ。それなら失敗することはない。

URL検査ツールのスクリーンショットはGoogleが実際に見ている表示

Search Console の URL 検査ツールが生成するスクリーンショットは、Googlebot が実際に見ているページだ。ただし、正常に表示されていなかったとしても、HTML が想定どおりに取得されていれば基本的に問題はない。



最終的に信頼できるのはライブテストで取得された HTML です。

スクリーンショットがおかしくても、ここに想定どおりに HTML コードが生成されていれば問題はありません。

ただし、スクリーンショットの失敗が頻繁に発生する場合は何らかの問題が生じている可能性があります。

「その他の情報」の次の項目で調査できます。

- ページのリソース
- JavaScript コンソールメッセージ



URL検査ツールのスクリーンショットはGoogleが実際に見ている表示

Search Console の URL 検査ツールが生成するスクリーンショットは、Googlebot が実際に見ているページだ。ただし、正常に表示されていなかったとしても、HTML が想定どおりに取得されていれば基本的に問題はない。

推奨は SSR

Googlebot が正常にレンダリングしない事態を防ぐ最も確実な方法は、イリース氏が言及しているサーバー サイド レンダリング (SSR) です。サーバー側でレンダリング完了した HTML を配信するので、Googlebot がレンダリングに失敗することはありません。

Googlebot の JavaScript の実行の能力はたいていの場合問題ないのですが、それでもバグが発見されたりもしているとのこと。

Googlebot の JavaScript 処理の最新状況に関しては、Martin Splitt(マーティン・スプリット)氏が最近の講演で詳しく話しています。興味がある方は視聴するといいいでしょう。



IndexNowがサポート対象を拡大、ChatGPT search最適化にも役立つか？

GoDaddy と Internet Archive、Condé Nast が IndexNow を新たにサポートした。

[次の 3 社が IndexNow を新たにサポート](#)しました。

- GoDaddy
- Internet Archive
- Condé Nast

[IndexNow](#) は、新規コンテンツ・更新コンテンツ・削除コンテンツをサイト側から Bing に通知し速やかなクロール、インデックスをリクエストする技術です。[2021 年 10 月に公開](#)されました。

IndexNow のサポートを開始した 3 社

新たに IndexNow をサポートした GoDaddy は、大手ホスティングサービスです。GoDaddy でホストされるウェブサイトでは IndexNow が有効になります。

Internet Archive は [Wayback Machine](#) を運用する非営利団体です。Wayback Machine のアーカイブ取得を IndexNow は効率化します。

Condé Nast は VOGUE や WIRED などの多くのメディアを運営する米国の大手パブリッシャーです。IndexNow をサポートすることで、新規コンテンツの Bing インデックスを促進できます。

IndexNow がサポート対象を拡大

現在 IndexNow をサポートする検索エンジンは次のとおりです。

- Microsoft Bing
- Yandex(ロシアでよく使われる検索エンジン)
- Naver(韓国でよく使われる検索エンジン)
- Seznam.cz(チェコでよく使われるの検索エンジン)
- Yep(Ahrefs が開発中の検索エンジン)

Google は現状では IndexNow をサポートしません。

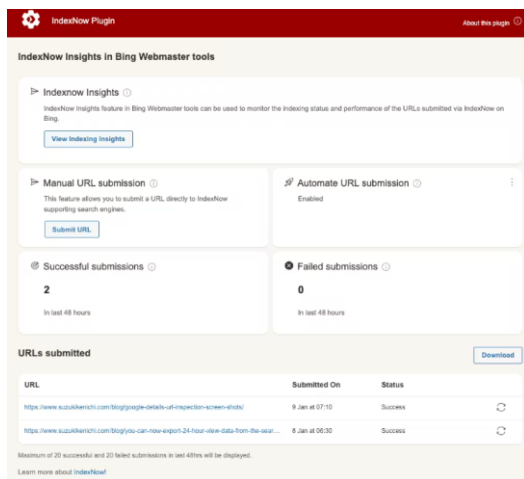
IndexNowがサポート対象を拡大、ChatGPT search最適化にも役立つか？

GoDaddy と Internet Archive、Condé Nast が IndexNow を新たにサポートした。

検索エンジン以外のプラットフォームでは、Cloudflare や Akamai といった CDN、Wix や Shopify といったホスティングサービスが IndexNow をサポートします。

今回サポートを始めた Condé Nast のように IndexNow で検索エンジンのインデックスを促進する大手サイトも増えています。サポートするプラットフォーム、サービス、サイトは今後も増えていくと予想されます。

また、WordPress では、[IndexNow を有効にする Bing 公式プラグイン](#)も公開されています。



WordPress にインストールした IndexNow プラグイン。設定は不要でインストール後に有効にするだけ

ChatGPT search 最適化のための IndexNow

ChatGPT search のインデックスは Bing のインデックスを中心に利用しています。

今後 ChatGPT search が普及すると見込むなら、IndexNow を利用できる状態にしておくといいかもかもしれません。

Google CEO:検索は2025年に大きく変わる

GoogleのCEO、サンダー・ピチャイ氏は、ウェブエコシステムに対する懸念をうまく表現できずにいる一方で、2025年にGoogle検索が大きく変わると語っています。

この記事は、2024年12月6日に Search Engine Journal で公開された

[Roger Montti 氏の「Google CEO: Search Will Change Profoundly In 2025」](#)を翻訳したものです。



GoogleのCEO、サンダー・ピチャイ氏は、ウェブエコシステムに対する懸念をうまく表現できずにいる一方で、2025年にGoogle検索が大きく変わると語っています。

ピチャイ氏は、ニューヨーク・タイムズのディールブック・サミットでアンドリュー・ロス・ソーキン氏からインタビューを受け、その中で2025年にGoogle検索に何が期待できるかについて話しましたが、コンテンツ制作者に対するGoogleの懸念を明確に表現するのに苦労しました。

インタビューでは、Googleが現在業界の他の企業と比べてどのような位置にいるのか、また「デフォルトの勝者」としてふさわしいかどうかについて尋ねられました。その際、ピチャイ氏は、これらの質問は「大きな変化の初期段階である」とインタビューアーに伝え、GoogleがAI分野でリーダーであり、追随者ではないことを強調しました。AI業界全体は、オープンソース化されたGoogleの研究成果、特にトランスフォーマー技術を基盤に構築されており、もしトランスフォーマーがなければ、現在のAI業界は存在しなかっただろうと述べました。

ピチャイ氏は次のように答えています。

「業界にとって、今は非常にダイナミックな瞬間です。これから起こることを考えると、私たちは大きな変化の初期段階にいると言えます。私たちはAIに対して非常に深いフルスタックのアプローチを採用してきました。」

「当社は世界クラスの研究を行っています。世代AIに関して言えば、私たちは世界で最も引用されている機関です。基礎研究からAIインフラストラクチャの構築、さらにはシリコンを基盤としたAIインフラの構築まで、私たちは第6世代のテンソル処理ユニットに取り組んでいます。また、先ほど当社の製品群について触れましたが、当社は5億人のユーザーを抱える15の製品を提供しており、基礎モデルを構築しています。これらの技術は社内で使用され、さらに300万人以上の開発者に提供されています。これはフルスタックの深い投資です。」

「私たちは次世代のモデルに向けて準備を進めており、これから多くの革新が待ち受けていると確信しています。私たちはこの分野の最先端をリードすることに注力しており、その方向で進んでいくつもりです。実際、今日、私たちは3Dシーンを作成するためのテキストと画像のプロンプトに関する画期的な研究を発表しました。この最先端技術は急速に進歩しており、2025年が楽しみです。」

Google CEO:検索は2025年に大きく変わる

GoogleのCEO、サンダー・ピチャイ氏は、ウェブエコシステムに対する懸念をうまく表現できずにいる一方で、2025年にGoogle検索が大きく変わると語っています。

ブルーリンクエコノミーとAI

インタビューは、GoogleがAIの先駆者だったが、その後はそうではなくなったと指摘し、特にOpenAIが2022年に急成長し、その後大成功を収めたことに言及しました。そして、ピチャイ氏に対し、Googleが「ブルーリンクエコノミー」を守るためにどれほどの費用をかけて、数千億ドルの価値を持つ「そのビジネスを傷つけたり食べ物にしたりしないようにした」のかを尋ねました。

ピチャイ氏は、Googleのすべてのプロジェクトの中でAIが最も多く適用されているのは検索であり、BERT、MUM、マルチモーダル検索が検索品質のギャップを埋めるのに役立っていると答えました。また、検索業界の一部の人々が理解していないことは、2012年にGoogleが画像識別と音声認識にディープニューラルネットワークを使用し、2014年にはテキストの文字列を理解するシーケンストウーシーケンス学習を世界に紹介した時点で、AIはすでにGoogleの一部になっていたという点です。さらに、2015年にはGoogleが検索結果のランキングに直接関連するAIシステムであるRankBrainを導入したこともあります。

ピチャイ氏は次のように答えました。

「社内で最も積極的にAIを適用した分野は検索で、検索品質のギャップはすべて社内で開発したTransformer技術に基づいています。私たちはこれをBERTとMUMと呼んでおり、検索をマルチモーダルにすることで検索品質を改善し、検索の言語理解を向上させました。これが、社内でTransformerを構築した理由です。」

「過去数年間を振り返ると、AIの進展を見て、Geminiは検索だけで10億人以上のユーザーに利用されています。」

2025年、検索は大きく変化する

ピチャイ氏は、検索が2025年だけでなく、その初めの段階でも大きく変化するだろうと語り続けました。さらに、革新しやすい段階はすでに実現されているため、今後の進展は以前よりも難しくなるだろうとも述べました。

彼は次のように言いました。

「私たちはまだ始まったばかりだと感じています。検索自体は、2025年に大きく変化し続けるでしょう。私たちはこれまで以上に複雑な問題に取り組むことができるようになると思います。そして、2025年の初めの段階でさえ、検索が現在と比べてどのような新しいことを可能にするのかに驚かされることでしょう。」

Google CEO:検索は2025年に大きく変わる

GoogleのCEO、サンダー・ピチャイ氏は、ウェブエコシステムに対する懸念をうまく表現できずにいる一方で、2025年にGoogle検索が大きく変わると語っています。

ピチャイ氏はまた、進歩は容易ではないとも強調しました。

「2025年を見据えると、進歩はより困難になると感じています。簡単に達成できる目標は、もう残っていないと思います。しかし、今後のブレイクスルーや差別化の源泉となるのは、技術的なブレイクスルーやアルゴリズムの進化、そしてシステムをどのように機能させるか、つまり計画や推論の観点からシステムをどう改善するかにあると考えています。これらが今後の技術的なブレイクスルーとなるでしょう。」

検索はなくなるのか？

インタビュアーは、ピチャイ氏に対して、GoogleはAIに十分力を入れているのかを尋ね、ある著者の言葉を引用しました。その著者は、検索以外のAIや他のプラットフォームから答えを得ることが増えているため、Googleの「コアビジネスは危機に瀕している」と指摘し、オンラインコンテンツの多くがAIによって生成されるようになるため、検索の価値は「低下する」と述べていました。

これに対し、ピチャイ氏は、インターネットが偽のコンテンツで溢れている現状こそが、検索の価値をさらに高めると答えました。

ピチャイ氏は次のように述べました。

「コンテンツが溢れかえる世界では、検索のようなものがより価値を持つようになるでしょう。情報が氾濫している中で、信頼できるコンテンツ、つまり確実に使える方法で自分にとって意味のあるコンテンツを見つけるためには、検索の役割が一層重要になると思います。」

また、ピチャイ氏は以下のようにも述べました。

「先ほどおっしゃった通り、現在の世の中には膨大な情報が存在し、人々はさまざまな方法で情報を入手しています。情報は人類にとって本質的なものであり、私たちはその扱い方において多くの変遷を経てきました。例えば、Facebookが登場したとき、人々はYouTubeやFacebook、TikTokなど、まったく新しい方法で情報を入手するようになりました。挙げればきりがありません。」

「しかし、こうした情報消費の構造には多くの問題があると思います。その本質的な問題は、ゼロサム的な見方にに基づいていることです。つまり、人々が情報を限られた方法で消費し、それをみんなで分け合っているかのように見えるのです。しかし、実際には人々がやっていることはそうではないのです。」

Google CEO:検索は2025年に大きく変わる

GoogleのCEO、サンダー・ピチャイ氏は、ウェブエコシステムに対する懸念をうまく表現できずにいる一方で、2025年にGoogle検索が大きく変わると語っています。

ピチャイ氏、クリエイターへの影響についての質問につまづく

インタビュアーは次に、コンテンツの価値が下がっているかどうかを尋ねました。具体的には、本のテーマについて調べ、20冊の本を読み、その出典を参考文献に引用して本を出版する人々を例に挙げました。一方で、Googleはあらゆるものを取り込み、一日中コンテンツを「吐き出し」、かつては本を書いていた人々を打ち負かしていると指摘されました。

アンドリュー・ロス・ソーキン氏は次のように語りました。

「それを百万回吐き出すことができるのです。一日に百万回。そして、最初にそれを作った人たちにとって、それが経済的にどうなっているのか疑問に思うのです。」

これに対し、ピチャイ氏は、Googleがパブリッシャーの「エコシステム」への影響や、パブリッシャーにどれだけのトラフィックを送っているかを考えるのに多くの時間を費やしていると述べ、Googleを擁護しました。インタビュアーはピチャイ氏の答えに耳を傾けましたが、重要な問題については触れませんでした。具体的には、Redditや広告で埋め尽くされた検索結果が実際の専門家が作成したコンテンツを押し下げ、ニュースコンテンツの優先順位が下がることで、世界中のニュース組織へのトラフィックに悪影響を与えていることについてです。

ピチャイ氏はこの時点で、返答の言葉を見つけようとしてつまづいたように見えました。彼はウェブサイトについて言及することを避け、「エコシステム」について抽象的に話し始め、そして話すことが尽きると方向転換し、YouTubeのコンテンツIDプログラムにサインアップした著作権保有者にGoogleがどのように補償しているかについて話し始めました。

彼はこう答えました。

「そうですね、それは…とても重要な質問です…ええと…私は…考えます…他のどの会社よりも…ご存知のとおり、私たちは長い間、検索においても、エコシステムに送信するトラフィックについて考えることに多くの時間を費やしてきました。これはよく議論されることですが、私たちはエコシステムに送信するトラフィックについて考えることに多くの時間を費やしています。過去数年間の移行期間中も、それは私たちにとって重要な優先事項です。」

続けて彼は、GoogleのコンテンツプラットフォームであるYouTubeと、著作権で保護されたコンテンツを識別するために使用される「コンテンツID」について話し始めました。コンテンツIDは、音楽、映画、テレビ業界の企業、つまり「YouTubeに頻繁にアップロードされる大量のオリジナルマテリアルに対する独占的権利を所有する」著作権所有者に利益をもたらすプログラムです。

Google CEO:検索は2025年に大きく変わる

GoogleのCEO、サンダー・ピチャイ氏は、ウェブエコシステムに対する懸念をうまく表現できずにいる一方で、2025年にGoogle検索が大きく変わると語っています。

ピチャイ氏は続けました。

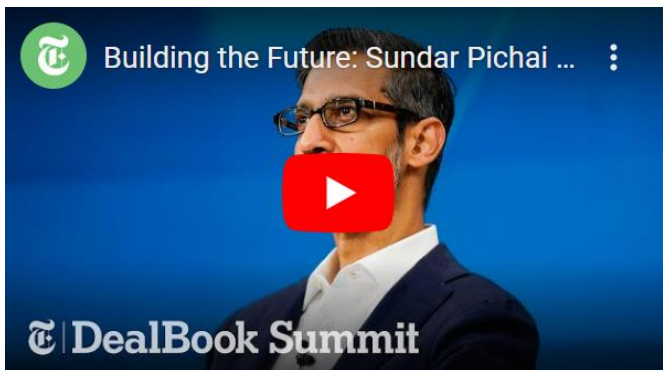
「YouTubeでは、コンテンツを理解し、コンテンツIDでコンテンツを識別し、クリエイターの収益化を図ることに多大な努力を払っています。」

「私は…それらは重要な原則だと思います。新しいテクノロジーが登場したときに何がフェアユースなのかを理解することと、IPの価値、つまり人々が費やした努力に比例して価値を還元する方法との間には常にバランスがあると思います。」

アルファベットのCEOの洞察に満ちたインタビュー

インタビュアーは難しい質問をすることに成功しましたが、検索結果に詳しい検索マーケティングコミュニティの多くの人々は、GoogleのYouTubeプラットフォームに参加していないコンテンツクリエイターや、実際の専門家によるコンテンツを押し下げる非専門家のコンテンツについて、さらに詳細な質問をしたのではないかと考えられます。

ニューヨーク・タイムズでのインタビュー(英語)は、こちらからご覧いただけます。



ChatGPT searchの弱点が露呈。隠しテキストで欺かれるAI(25年前のグーグル的)【海外&国内SEO情報ウォッチ】

Web担当者Forum の連載コーナー「海外&国内SEO情報ウォッチ」を更新。「隠しテキスト」という化石のようなスパム手法が、生成AI検索に効いてしまっているようだ。SEO 業界の人なら思わず笑ってしまいそうな ChatGPT search の話題をお届けする

[Web担当者Forum](#) の連載コラム、「[海外&国内SEO情報ウォッチ](#)」を更新しました。

今週のピックアップはこちらです。

- ChatGPT searchの弱点が露呈。隠しテキストで欺かれるAI(25年前のグーグル的)



ほかにも、ウェブサイト運営や SEO に役立つ、次のような情報を取り上げました。

- LLMからのトラフィックが増加、2025年末までに総トラフィックの0.25%から10%に増えると予想
- ファセットナビゲーションのSEO対策ガイド(ベストプラクティス)
- グーグル検索におけるCDN: 多くの利点と思いがけない落とし穴
- 2024年11月のオフィスアワー: 被リンクリストの配布とページ評価、指名検索で検索結果に出ない、Discoverのパフォーマンス下落 など
- グーグル、年末に立て続けのアップデート —— コア&スパム対応
- ニュース記事の配信先がオリジナルよりも上位表示してしまう→対処法はnoindex
- 今朝公開したコンテンツのアクセスはどうなってる? →SCの24時間ビューでチェック
- スタートアップ企業にブログは必要か?
- グーグルに続いてBingも検索結果のキャッシュリンクを廃止

こちらからどうぞ。

- [ChatGPT searchの弱点が露呈。隠しテキストで欺かれるAI\(25年前のグーグル的\)【SEO情報まとめ】](#)

meta: 第三者機関のファクトチェック終了へ

既にTVニュース等に取り上げられていたので、ご存知の人も多いかと思いますが、metaでは、第三者機関によるファクトチェックを行っており、[日本でも昨年9月に導入する旨](#)発表しておりました。しかし、このファクトチェックを米国で終了する旨、発表しました。米国現地時間1月7日に、マーク・ザッカーバーグ氏本人の映像と共に[発表](#)していますのでご紹介しておきます。ちなみに日本では引き続き今のところ第三者機関によるファクトチェックは継続する模様です。ということは？…ってことなのですが。

どういうこと？

要は、Metaとして投稿等の不適切な要素やコンテンツを排除すべく、時事問題やその他重要な社会的要素に関わるものに関しては、第三者機関によるファクトチェックを実施しておりましたが、この度facebookやInstagram、Threadsにおいて、米Metaではファクトチェックを外し、利用者間で指摘し合える仕組み([Xのコミュニティノート](#))に変えると発表しました。

まずは、Metaの発表内容を一部和訳してご紹介します。

2016年に独立したファクトチェックプログラムを開始した時、Metaとしては真実の裁定者にはなりたくないと明確に述べていました。そこでMetaでは、その責任を独立したファクトチェック組織に委ねるといふ、当時最善かつ最も合理的な選択をしたと考えました。このプログラムの目的は、これらの独立した専門家が、特に拡散しているデマなど、オンラインで目にするものについて人々により多くの情報を提供し、人々が見たものや読んだものを自分自身で判断できるようにすることでした。

しかし、実際にはそうなりません(特に米国では)。専門家も他の人たちと同様、独自の偏見や視点を持っています。これについて、何をどうファクトチェックすべきかという選択に迫られました。時間の経過とともに、人々が正当な政治的発言や討論だと理解する内容がファクトチェックプログラムの対象として厳格になりすぎました。そして事実、Metaのシステムでは、押しつけがましいラベルや配信の削減という形で表面化しました。情報提供を目的としたプログラムにも関わらず、検閲のツールと化すことが多すぎました。

そして、今Metaではこのアプローチを変更しているところです。米国における現在の第三者によるファクトチェックプログラムを終了し、代わりにコミュニティノートプログラムに移行します。このやり方はXで非常に有効的のようです。Xでは、投稿が誤解を招く可能性があり、より詳細なコンテキストが必要な場合、コミュニティが判断できるようにしています。また、様々な視点を持つ人々が、他のユーザーが見るのに役立つコンテキストの種類を判断しています。これは、人々に見ているものに関する情報を提供するという当初の目的を達成する上で、より良い方法であり、偏見が入りにくい方法でもあると考えています。

<中略>

コミュニティノートは、まず今後数ヶ月かけて米国で段階的に導入し、1年程かけて改善を続けていく予定です。移行にあたり、ファクトチェックによる制御を廃止し、ファクトチェック済のコンテンツ取り下げを活動停止します。また、投稿を見る前にクリックしなければならないフルスクリーンインタースティシャル警告を表示する代わりに、見たい人に追加情報があることを示すような、もっと目立たないラベルにしていきます。

引用)[about.fb.com](#)より一部和訳

meta:第3者機関のファクトチェック終了へ

既にTVニュース等に取り上げられていたので、ご存知の人も多いかと思いますが、metaでは、第3者機関によるファクトチェックを行っており、[日本でも昨年9月に導入する旨](#)発表しておりました。しかし、このファクトチェックを米国で終了する旨、発表しました。米国現地時間1月7日に、マーク・ザッカーバーグ氏本人の映像と共に[発表](#)していますのでご紹介しておきます。ちなみに日本では引き続き今のところ第3者機関によるファクトチェックは継続する模様です。ということは？…ってことなのですが。

つまり、Metaの建前上の言い方としては「ユーザーの見る目を養うため、独自で判断できるようにするため、ファクトチェックで検閲してきたけど、過敏になりすぎて、むしろ発言の自由を束縛してしまい、ユーザーを排除するような形になってしまった。なので、“個人の意見ですよ。事実かどうかご自身で判断しつつ、背景情報を提供できる人はお願いします”というコミュニティノート型に移行するよ。」という内容です。

では、Metaの本音を私なりに推察し言い換えますと、「ユーザーの見る目を養うため、独自で判断できるようにするため、ファクトチェックで検閲してきたけど、過敏になりすぎて、むしろ発言の自由を束縛してしまい、[トランプ大統領様を排除する](#)ような形になってしまった。なので、“個人の意見ですよ。事実かどうかご自身で判断しつつ、背景情報を提供できる人はお願いします”というコミュニティノート型に移行するよ。」ということかと。

メタは2016年から偽情報への対策としてファクトチェックの取り組みを始め、2021年の連邦議会への乱入事件を受けてトランプ氏のアカウントの停止に踏み切るなどトランプ氏との関係が一時、悪化しました。

しかし、大統領選挙後には、トランプ氏の大統領の就任式関連の基金に100万ドル、日本円にしておよそ1億6000万円を寄付するなど関係改善を進めていて、アメリカのメディアは今回の措置はトランプ氏が今月20日に大統領に就任することを踏まえた動きだと伝えています。

引用)[NHK](#)より一部

そして、NHKでは以下の内容も報道しています。

メタが第三者による投稿内容の事実確認、ファクトチェックを廃止すると発表したことを受け、国際的なファクトチェック団体などは批判する声明を相次いで出しました。

このうち、世界各地にあるファクトチェック団体などが加盟する「国際ファクトチェックネットワーク」のディレクター、アンジー・ドロブニック氏は、みずからのXで「[日常の生活や友人や家族とのやりとりで物事を決める際に、正確で信頼できる情報を探すSNS利用者にとって打撃となる。ファクトチェックのジャーナリズムでは検閲したことはないし、投稿を削除したこともない。政治的な党派とは関係なく、透明性を重視する行動規範に従ってきた」とするコメント](#)を出しました。

また「[欧州ファクトチェック基準ネットワーク](#)」も「[ファクトチェックを検閲と結び付けるCEOの発言を強く非難する](#)」としたうえで「[今回の決定はトランプ政権が始まる中での政治的な動機に基づいた動きとみられる](#)」としています。

引用)[NHK](#)より一部

meta:第3者機関のファクトチェック終了へ

既にTVニュース等に取り上げられていたので、ご存知の人も多いかと思いますが、metaでは、第3者機関によるファクトチェックを行っており、[日本でも昨年9月に導入する旨](#)発表しておりました。しかし、このファクトチェックを米国で終了する旨、発表しました。米国現地時間1月7日に、マーク・ザッカーバーグ氏本人の映像と共に[発表](#)していますのでご紹介しておきます。ちなみに日本では引き続き今のところ第3者機関によるファクトチェックは継続する模様です。ということは？…ってことなのですが。

長い物には巻かれろ

大統領選が始まった時からイーロン・マスク氏もトランプ氏に近づいており、またトランプ氏は前大統領時代にIT企業に対してドラスティックな判断を下したりした経緯もあり、今回のザッカーバーグ氏の決断も近い未来のMetaの行く末のために行ったと想像できますね。

GAFAMであれ、“長い物には巻かれろ”という判断をするということですね、少なくとも2～4年間は。

2024年12月のSEO業界ニュースTOP5【YouTubeミエルカチャンネル】

2024年12月のSEO業界ニュースTOP5を動画で紹介

[Faber Company](#) が運営する [YouTube ミエルカチャンネル](#) では、毎月の SEO 重要ニュースを 5 つ、僕がピックアップして簡潔に解説しています。

2024年12月のSEOニュースTOP5の動画を公開しました。
押さえておきたいSEO関連の出来事をサクッとチェックできます。
ご視聴ください。



2024年12月に選んだ注目SEOトピック

2024年12月の注目トピック詳細はこちらです(リンク先は関連記事)。

1. [Google、日本版「ディスカッションとフォーラム」をテスト中](#)
2. [ChatGPT検索がすべてのログインユーザーで利用可能に](#)
3. [直近24時間のデータをGoogle Search Consoleのパフォーマンスレポートで入手可能に](#)
4. [\[December 2024 core update\]Google、2か月連続のコアアップデート。将来はコアアップデートはリアルタイムになる？](#)
5. [Google、検索システムアップデートを連発！今度は2024年12月のスパムアップデート](#)
6. [Googleの検索結果がパーソナライズされているかいないかを簡単に見分けられるようになる](#)